

令和8年4月1日

法学部法律学科 アセスメントプラン

アセスメントの方針

近畿大学の建学の精神及び教育の目的並びに法学部の教育の理念及び目的に従った教育活動を実施できているかを確認し、教育活動の成果と課題の発見に資することを目的として、学修成果のアセスメントを行なう。学修成果に加えて、その過程となる学修意欲や学修行動もアセスメントに含む。これらのアセスメントにより、3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達状況を把握する。ディプロマ・ポリシーの到達状況は卒業時の学修成果や卒業後の自己並びに社会的評価、カリキュラム・ポリシーの到達状況はカリキュラムの実施状況及び各授業科目における学生の学修成果等をもとにディプロマ・ポリシー到達に向けた進捗、アドミッション・ポリシーの到達状況は入学者の資質・能力を確認する。アセスメントは、学生の成果物等に基づき「何ができるか（アウトカム）」を評価する直接評価と、学生の自己評価に基づき「何ができると思っているか（アウトカム）」、「どのように学修しているか（アウトプット）」を評価する間接評価に基づき行なう。学生全体だけでなく個々の学生の状況についても、経年的かつ多面的に把握する。

アセスメントの方法

No.	名称	対象	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	実施責任部署	結果の活用方法
例	卒業論文・卒業研究等ルーブリック	DP	毎年度末等	卒業学年	卒業論文・卒業研究等の学修成果	各学部等	個々の教員が評価を行い、結果を学部等で集約し、各学部等の授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
1	近大ゼミルーブリック	CP/DP 5・6	前期末	1年生	近大ゼミの学修成果（建学の精神と教育目的の理解、キャリアとの関連付け；学生生活とコミュニケーション；調査・分析の手法の習得；読む・書く・話す・聞く能力の向上）	教務委員会	個々の教員の評価基準の参考とし、さらに学生に対しても、授業の到達目標として提示する。 結果は、教務委員会で集約し、次年度の授業方法・内容やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用する。
2	卒業アンケート	DP 1～7	毎年3月	卒業学年	学修経験、学修行	学生センター	学生センターが執行部及び教務委員会に

	ト				動、習得した能力、大学の満足度	執行部	報告し、概要を Web サイトに掲載・公開するとともに、カリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
3	卒業生の進路状況	DP 1～7	毎年 1 回	卒業学年	卒業生の進路（就職決定率、進路決定率、有名企業 400 社就職率）	キャリア支援委員会	キャリア支援委員会とキャリアセンターが連携し、教員と結果を共有するとともに、全体会議・研修会等で報告し、キャリア支援、自己点検・評価、情報公開に活用する。
4	学部長会談	CP/DP 1～7	毎年 1 回	学生代表者（通例 2・3 年生）	学修行動、授業・カリキュラム満足度、学生生活に関する要望等	執行部 学生センター	【学修行動、授業・カリキュラム満足度に関する意見】 教務委員会及び IR・教育支援センターと連携し、執行部において内容を精査し、全体会議において共有の上、授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価に活用する。 【学生生活に関する要望】 学生委員会及び学生部と連携し、執行部において内容を精査し、全体会議において共有の上、学修・生活環境の改善、自己点検・評価に活用する。
5	学修振り返りアンケート	CP	毎学期 2 回（学期半ば・学期末）	全学年	授業の理解度、学修行動、学修到達目標の達成度	教務委員会 学生センター	個別の授業に対する授業の理解度、学修到達目標の達成度等を測り、可視化する。 【授業中間アンケート】 アンケート結果は、個別の授業担当教員が確認し、当期の授業改善に役立てる。 【学修振り返りアンケート】 学生センターにおいて、実施科目のアンケート結果を集計・集約し、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用するとともに、集計結果をグラフ等にまとめ可視化の上で公開する。
6	成績不振・出席不良等学生及び休退学の調査、高等教育無償化・多	CP	毎学期 1 回（成績不振・出席不良）、随時（休退	全学年	学業不振の状況（GPA、修得単位数、出席状況）、留年者数、休学者数、退学者数	学生委員会 学生センター	対象学生に対する指導・面談を実施し、学修及び学修支援、教育課程の改善、自己点検・評価に活用する。

	子世帯授業料無償化対象学生の調査		学)				
7	全国学生調査(2年次)	CP	毎年	2年生	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の印象	学生センター	IR・教育支援センターから提供を受け、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
8	全国学生調査(4年次)	DP1～7	毎年3月	卒業学年	学修経験、学修行動、習得した能力、大学の満足度	学生センター	IR・教育支援センターから提供を受け、学部の授業方法やカリキュラム改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
9	GPS-Academic(1年次)	AP/CP	毎年4～5月頃	原則1年生	本学への満足度、入学前の学習状況、海外留学の意識、卒業後の進路	教務委員会 学生センター	近大ゼミにおいて、問題を解決する力を学び考えるワーク(グループワークを含む。)の基礎資料とする。 Benesse i-Careerが全体会議(FD研修会)で結果を報告し、結果の共有を図るとともに、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用する。
10	GPS-Academic(3年次)	CP/DP1～7	毎年1回	原則3年生	学修行動、授業・カリキュラム満足度	学生センター	Benesse i-Careerが全体会議(FD研修会)で結果を報告し、結果の共有を図るとともに、キャリア支援、授業方法やカリキュラム改善、学修支援・学修環境の充実、入試戦略の立案や自己点検・評価、情報公開に活用する。
11	学生生活実態調査	CP/DP1～7	隔年9～10月頃	全学年	学生生活、課外活動の経験、学修行動、大学に対する評価	学生委員会 学生センター	学生部が全体会議(FD研修会)で学部別報告会を実施し、教育課程の改善、学修支援や学修環境の充実、自己点検・評価や情報公開に活用する。
12	入学試験	AP	毎年	入学志願者	大学での学修に必要な基礎学力	入試対策委員会 執行部 学生センター	入学センターが全体会議(FD研修会)に結果を報告し、結果の共有を図るとともに、入学試験の改善、入学者の現状把握に活用する。
13	英語プレイスメントテスト	AP	毎年	1年生	TOEIC Bridge®テスト	執行部(教養・基礎教育部門) 学生センター	入学時点の英語習熟度を把握し、習熟度別語学教育のクラス分けに活用する。
14	入試区分別学修状況	AP/CP	毎年	全学年	一般・センター・附属・学校推薦・公募推薦・スポー	入試対策委員会 執行部 学生センター	入試区分ごとの学修状況を、GPA、修得単位、進級率等に基づいて評価し、入試制度の適切性や区分ごとの学修指導の要否・内容の

					ツ等入試区分別学修状況 (GPA、修得単位、進級率等)		点検・改善に用いる。
15	LPC 留学参加者の成績・学修態度	CP	毎年	2年生	LPC 留学者の留学前・中・後の成績、LPC 留学者に占める国際コース所属学生の比率	国際交流委員会 国際コース 学生センター	LPC 留学者が、留学中にどのような学修を行ったか、留学前後の(とりわけ英語能力の)成績の比較によって、LPC 留学制度の効果を測定し、点検・改善に役立てる。 国際コース以外の学生の参加状況を調査し、ニーズとその理由に基づいた制度の見直しに役立てる。
16	各種検定試験実績	CP DP 1～3	毎年	1年生 2～4年生	法学検定試験受験実績(受験者、コース別合格状況) ニュース時事能力検定試験の級別受験者数・合格者数・合格率	教務委員会 キャリア支援委員会 学生センター	法学検定試験の受験実績を調査し、対策科目(「法学の基礎」)の効果を測定するとともに、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。 ニュース時事能力検定試験の受験実績を調査し、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。
17	資格取得状況	CP/DP 1～4	毎年	卒業学年	法律専門職(法曹(裁判官・検察官・弁護士))の資格試験(司法試験(予備試験を含む。))の受験者数・合格者数 法律専門職(司法書士・行政書士等)の資格試験の受験者数・合格者数 法律専門職以外(土地家屋調査士等)の資格試験の受験者数・合格者数	法曹コース キャリア支援委員会 学生センター	司法試験については法曹コースが、また司法試験以外の資格試験についてはキャリア支援委員会がそれぞれ学生センター及びキャリアセンターと連携して受験実績等を調査し、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。
18	英語技能外部試験成績	AP/CP/DP 5・7	毎年	全学年	TOEIC®の受験状況(受験者数、成績) 各種英検、TOEFL、IELTS の受験状況(受験者数、成績)	国際コース 国際交流委員会 執行部(教養・基礎教育部門) 学生センター	TOEIC®及び各種英語技能テストの目標スコア達成状況を調査し、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。

19	コース実績 (法曹)	CP/DP 1～4	毎年	3年生・4 年生	司法コース・専攻 プログラム離脱者 数 法科大学院進学 者・進学率 早期卒業者数・卒 業率 大学院（連携法曹 基礎課程）進学者 数・進学率 司法試験予備試験 受験実績（受験 者、短答式・論文 式・口述各試験の 合格状況）等	法曹コース 学生センター	3年生の時点で要卒単位を修得し、法科大学院（既修・未修）への進学が確定し、早期卒業する者の人数・比率・学修状況を調査し、法曹コース教員会議において共有するとともに、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。 連携法曹基礎課程を修了し、早期卒業の制度を利用して連携法科大学院に進学する者の人数・比率・学修状況を調査し、法曹コース教員会議において共有するとともに、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。 司法試験予備試験の受験状況を調査し、法曹コースの教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。 司法試験研修所の協力を得て、法曹志望者の動向を把握し、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。
20	コース実績 (行政)	CP/DP 1～4	毎年	4年生	プレ講義参加者、 配属申込者数、専 攻プログラム離脱 者数 国家公務員・地方 上級公務員試験受 験者数・合格者 数・合格率 市町村職員受験者 数・合格者数・合 格率	行政コース運営 委員会 行政コース 学生センター	行政コースが目標に掲げるキャリアの達成・到達度をプレ講義参加者・配属申込者数、受験者・合格者数等に基づいて調査し、コース運営委員会及びコース教員会議において共有するとともに、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。
21	コース実績 (国際)	CP/DP 1～ 5・7	毎年	4年生	プレ講義参加者・ 配属申込者数、専 攻プログラム離脱 者数 多国籍企業・外資 企業・海外事業展 開企業就職者数	国際コース 学生センター	国際コースが目標に掲げるキャリアの達成・到達度をプレ講義参加者・配属申込者数、就職者数等に基づいて調査し、コース教員会議において共有するとともに、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。
22	副専攻実績 (教育)	CP/DP 1・ 2・4～7	毎年	4年生	教育職員免許状取 得者数・取得率、 教育職員就職者	教務委員会 キャリア支援委 員会	キャリアセンター及び教職教育部と連携して教育職員志望者の動向及び免許状取得者数・取得率を調査し、教務委員会及びキャリア支

					数・就職率	学生センター	援委員会において共有するとともに、教育課程の適切性の評価と改善に役立てる。
23	副専攻実績 (スポーツ)	CP/DP 1～6	毎年	全学年	スポーツ学生学修 状況 (GPA、修得単 位、進級・卒業率 等) スポーツ学生就職 状況	教務委員会 キャリア支援委 員会 学生センター	キャリアセンター及びスポーツ振興セン ターと連携してスポーツ学生の学修・就 職状況を調査し、教務委員会、キャリア 支援委員会において共有するとともに、 教育課程の適切性の評価と改善に役立て る。

以 上